

【当事者参画】町民みんなでつくる「越える学校」

秋田県五城目町

五城目町では、PTA が主体となって始まったワークショップをきっかけに教育委員会が対話の場を数多く主催し、町全体に発信（ファシリテーターとして地域おこし協力隊を起用）し、そこから生まれた建築コンセプト「越える学校」を合言葉に学校づくりを進め、さらには新しい小学校と周辺エリアを拠点とした世代を越えた学びの活動へと継承しています。

※バリアフリー整備に特化した取組ではありませんが、学校を取り巻くステークホルダーとのやり取りの中で、いかに学校づくりに活かしていったのかといった観点でその方法等について参考としてまとめたものです。



【当事者参画の実施方針・位置づけ】

- 施設の耐震不足と老朽化、土砂災害の危険性があることを理由に、町で唯一の小学校を移転改築する方針が決定。
- 町民一人一人の声を町に届けることで、未来の住民に胸を張れるような小学校建設に役立ててもらいたいという想いから、PTA の主催で最初のワークショップを実施。その後も教育委員会の主催で様々なテーマについて複数回のワークショップを実施。
- 施設完成前から、新校舎内に整備される地域図書室を核とする“地域に開かれたエリア（生涯小学校エリア）”の活用方法等、完成後の学校の使い方についても検討を重ねた。

- 対話の記録は、「ごじょうめ未来ノート」としてまとめ、教育委員会がリーフレットを作成し町内に発信した。

2017年3月11日
未来の五城目小学校を語ろう！
 小学校区画に先立ち、町民ひとりひとりの意見や思いを聞き、学校の姿を話し合い、その声を町に届けることで、未来の住居に併する小学校区画につなげていこうという思いから、五城目町PTA連合会の主催で行われました。参加者31名の会費者を動員、町へ届けられました。

2018年1月21日
未来の学び
 学校区画の第一人者・長澤博さん（教育環境研究所長）と、教育制度の専門家・松澤貴典さん（NPO法人プラストビート代表）にお話をいただき、ワクワクする未来の学びの姿を想像。後半のワークショップでは、会場からテーマを募りグループに分かれて話し合いました。
 当日のテーマ：「学校と地域の共創」「心身の健康」「2020年教育改革以降を先取りした学び場」「学校建築のあり方」「100年続く持続的な学校建築」

2018年2月18日
地域と共につくる学校
 寄贈を協賛する学校建築を企画で手掛ける工藤和典さん（シーラカンズK&H代表取締役）にお話をいただき、地域と共につくる学校の姿を思い出す可能性を想像。後半は、五小建築を担う村田建築設計事務所からの新校舎プラン発表を受けて、町民同士の対話をしました。
 当日のテーマ：「新校舎プランへの感想」「新校舎完成までやってみたいこと」「新しくなる学校のキャッチコピー」

2018年3月18日
基本設計報告会
 これまでの対話を踏まえ、町民の意見を思いをのせた「基本設計案」を発表。質疑応答が盛り上がり、地域とともにつくる未来の学校の姿が想像されました。学校建築コンセプトは「伝える学校。習得を超えて、年齢を超えて、地域を超えて、つながり学び合う新たな学校づくりがはじまります。」

2018年7月14日
新校舎のまわりを皆で探索しよう
 児童公園と五小ハイパー周辺をみんなで歩いて、新しい場所の使い方を考えるワークショップ。隣接する園内入・三浦さんをお招きして、木々から見える新校舎エリアの魅力を伝えていただきました。

2018年7月14日&11月25日
模型と展示で知ろう！新しい五城目小学校
 新校舎の模型と、建築コンセプトを紹介する展示会。レゴで学校づくりを体験できる「遊べる展示会」として、新校舎と同時開催しました。スクールトーク史上、最も多くの子ども達が来場する会となりました。

2019年3月10日
みんなで創ろう！学校とまちが出会う地域図書館
 地域図書館を核とする「地域に開かれたエリア（生涯小学校エリア）」をどう活用し、学びの環境をより豊かにできるか？そのヒントとして、本をきっかけに人とのつながりを生み出す「まちライブラリー」創設者の福井純亮さんと友成博一さんをお招きした講演会・ワークショップを行いました。本に関わる町内の地域団体の活動紹介も行われました。

2019年9月22日
コミュニティ・スクール
 これからの地域と学校のあり方を考えるー
 コミュニティ・スクールの元祖といわれる豊後小学校の校長・宮崎誠さんにお話をいただき、「学校とともにある地域づくり」を具体的な事例とともに学びました。後半は、五城目ならではの学校建築のあり方や、教育・子育てを通じてまちづくりを語り合いました。

2019年12月22日
地域の文化祭
 地域に開かれたエリア「地域図書館/学童館/五小ハイパー」の使い道・参加の仕方を、多世代で「学びの祭」しながら考える。会場周辺に文化祭、地域の魅力が気軽に立ち寄れる、いくつになっても学びに楽しめる、学校との関わりを持てる場所を具体化して見ました。
 当日の内容：「スクールトーク講演会」「建築士と建築関係者が語る！」「五城目プロジェクト「多世代継承の願い！」「出張図書館・展示展示ブース」「地域関係による生涯学習ブース」「あそび場・児童スペース」

2020年10月
いよいよ完成 GOAL

こうして生まれた！新校舎づくりの軌跡
 町でひとつになった小学校の未来を町民みんなでつくっていく。これって実は、全国的にもめずらしいなかなかすごいことなんです。そう、新校舎建設は次世代へのプレゼント。大好きな人に贈りものを選ぶときみたいに知恵をだし、悩んで、請って、開くって。「この学校、つくったんだよ」「五小は世界ー！」そう言える大人や子どもがあふれる町はなんだかとても、カッコいい。みんなで挑戦する軌跡を、ご覧ください。

新校舎の基本設計開始 START
 町民みんなで学校をつくろう！

発行：五城目町教育委員会

【当事者参画の方法】

- スクールトークという地域住民が参加するワークショップと教職員ワークショップを開催した。

【当事者の人選】

- スクールトークは、誰でも参加可能なワークショップであり、町広報やホームページ、チラシを作って住民の参加を求めた。参加方式は、事前申し込み型ではなく、飛び入り参加型とした。
- スクールトークには、地域住民、保護者、障害を持つ子どもやその保護者、町外の方を含め、延べ1,000人参加した。
- 教職員ワークショップは小学校の教職員が参加した。
- プロポーザルにおいて設計者は、当初、児童や教員からの意見聴取を考えていたが、町長の意向などもあり、参加者の幅が広がっていった。

【ファシリテーターの人選】

- 地域の教育コンサルタント業者に依頼し、対話の運営に関する知見を有していた地域おこし協力隊をファシリテーターに起用したことで、参加者の考えを深められるような対話を進めることができた。
- 完成までの約2年10か月間に10回以上のワークショップの場を設け、保護者や近隣住民、教職員はもとより、一緒に学校づくりを考えてくれる人々が幅広く参加した。

未来の五城目小学校を語ろう！
スクールトーク

新校舎1階会に向けた準備を進めている五城目小学校。
2017年3月11日に開催された「スクールトーク」(五城目町PTA連合会主催)では、たくさんの方の参加を嬉しく感じました。また一つ小学校の未来のあり方を、町民一人ひとりが考えながら話していく機会、これからも続けていきたいと思えます。
そんな想いから、新校舎の基本設計を考えるこのタイミングで、再び「スクールトーク」を開催いたします。
これからの小学校を考える上での参考となる「調査会」、住民同士が対話の場としての「ワークショップ」、対話を踏まえて今後の方向性を共有する「報告会」の3回構成で実施いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

1.21日 SUN	2.18日 SUN	3.18日 SUN
会場:五城目町ふれあい館	会場:五城目町ふれあい館	会場:五城目町ふれあい館
時間:10:00-12:00 13:30-16:00	時間:10:00-12:00 13:30-16:00	時間:10:00-12:00
【未来の学び】 ワークショップ	【地域と共につくる学校】 ワークショップ	報告会

全3回いずれも参加無料 申込不要
(※申込先:五城目町教育委員会 019-602-2077)

託児室あります
小さなお子さんのお母さんパパさんもお安心して参加いただけます。お預けを承継いたします。保護士さんがお持ちしております。(対象:小学校低学年まで)

対象:保護者の皆さま、町民の皆さま
主催:五城目町教育委員会・村田弘康建築設計事務所/協力:五城目町PTA連合会

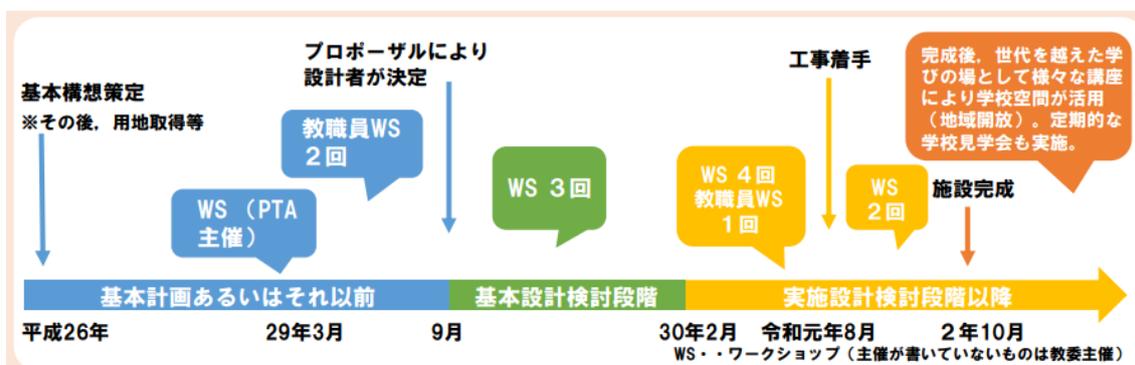


スクールトークで行ったワークショップの様子

スクールトークのリーフレット

【当事者参画の実施時期】

- 学校の移転改築決定から完成まで、誰でも参加可能なワークショップ(スクールトーク)を10回、教職員ワークショップを3回開催。



【当事者参画の内容】

(ワークショップの取組内容)

- 意見交換の場としてワークショップを行ったが、その前段には毎回必ずテーマに沿った先進事例の紹介や講演をセットにして行った。学校づくりに関する知識や経験が豊富な有識者を講師に招き、参加者に学校づくりとは何か考えてもらう機会や先進事例を紹介し学校空間の工夫等を知ってもらう機会を設けている。学校は住民にとっても、思い入れや思い出が多いため、既存のイメージから一旦離れて、新しい環境を考えてもらうことを意識した。
- 基本設計時は、未来の学習環境を考える場と、地域の学校をどのようにすり合わせるかを中心に考えた。実施設計時には、工事が始まるまでの間に、話し合ったことが風化しないように、設計内容や話し合いの内容を浸透させる場を設けた(模型の展示会や現地案内など)。工事開始後は、今後新しい学校で、どのようなことが展開されるか話し合い、イメージと熱量を持続するように心がけた。
- 教員に対しては、従来の学校施設に対するイメージを捨ててもらえるように意識し、先進事例の紹介や、新しい指導要領などを説明し、対面型授業や管理効率よりも学習空間の質を考えてもらえるように心がけた。
- 地域のワークショップは、小さな話題から考えず、大きな話題を切り口にした。RC造か木造かという話題ではなく、「どのような子供に育てほしい?」や、「地域のこれからは?」といった課題を設定し、教育感をつくり上げていった。
- バリアフリーやインクルーシブ教育に関する議論として、誰でも過ごせる空間を意識して作ってほしいという要望があった。配置計画上は、インクルーシブという言葉で、特別支援と普通教室を隣接させる流れがあるが、教員から、社会がインクルーシブになっていないので、現実的には、違いを乗り越える力がインクルーシブの第一歩だという意見があり、あえて、距離を取る配置とした。バリアフリーも同様で、学校の規模や児童生徒の障害の状況を踏まえ、特別支援の

教室は1階ではなく、2階に配置することとした。

- 施設の完成から約2年後、ワークショップの参加者からの「町民も何か学校に参加できる形がよい」という意見が基となり、新校舎と周辺エリアを拠点として、全町民を対象に0歳から100歳以上でも通える学びの場とする社会教育講座「五城目みんなの学校」を開催した。その際、校内の図工室や階段教室も会場として活用している。運営の一部を地元企業に委託しており、教育委員会や教職員の人事異動があっても活動の継承が円滑となっている。
- 「五城目みんなの学校」は基本的にワークショップと同様に誰でも参加できるようにしている。学校教育の目標が社会・地域の課題を解決する人材の育成であり、生涯学習も同様に社会の課題解決を目標としている。様々な参加者が混ざり合いながら、よりよい学びの環境を継続的に作っている。



地域図書室「わーくる」で開催した
「みんなの学校」の様子



小学校の「階段教室」で開催した
「みんなの学校」の様子

【当事者参画を通して得た気づき・感想】

- 意見聴取も大事ではあるが、設置者側の考え方を直接住民に伝えることも大きな役割だと感じた。当初は住民側に行政への不信感もあったが、行政も考えているということが伝わり、徐々に、円滑にコミュニケーションをとることができるようになった。ワークショップには信頼感や安心感を醸成する役割があると感じる。
- ワークショップの開催により、学校とは、様々な人がかかわって出来ていると、参加者は改めて気づくことになった。教員には教員の、保護者には保護者の当然と思っていることが相互に理解しているわけではないことに気づいた。
- また、それぞれの感覚が違っていても目標や理想を共有していくことが良い学校をつくるスタートであると気づいた。
- バリアフリーに関しては、説明をしっかりと行い、建物の包摂性を感じてもらうことが、住民の満足度の差になると感じる。

【参画後の意見調整】

- 教育委員会が中心となり、調整しながら設計者に指示を出した。また、決まったことや、叶えられない要望等は全体の報告会という形で、理由も含め、全て住民に説明した。
- 学校の図書室を地域に開放してほしいという要望があったが、それを採用すると、図書メディア機能を学校の中心にする基本的なコンセプトが損なわれるという問題があった。地域と学校の役割を話し合う中で、周辺の都市公園の中心となる部分を図書室にすることとした。結果として、学校用地だけでなく、周辺施設全体を学校の用地のように考えることになった。設計当初は図書室の地域開放は予定していなかったため、当初の設計案から、配置計画を大幅に変更した。



校舎外観
(手前の緑地(五小パーク)は都市公園
区画となっている)



教室とワークホール